

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201658		
法人名	㈱ファミーユ		
事業所名	グループホーム つぐみ下島		
所在地	静岡県駿河区下島447-2		
自己評価作成日	平成28年度9月10日	評価結果市町村受理日	平成28年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的に施設全体のイベントを開催し、家族、地域との交流が図れるよう力を入れている。その中でも、往診Dr内科、歯科、処方箋薬局と医療との連携を密に24時間、安心して暮らせていける環境作りを強化している。施設1階の地域交流室では市のリハパーク、地域包括支援センター、町内会自治会長、民生委員の協力のもと、毎週金曜日10時から約15人程、登録された近隣の高齢者の方々が集まり、介護予防のためのでんでん体操に通所され、身体機能向上、維持を目指している。介護相談や施設内の利用者との関わりを持てる場所を提供し、外部との活動を積極的に参加し、地域に根差せる取り組みを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201658-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年3月に開設した事業所は、広い石田街道より中に入る閑静な住宅地に位置し、水田や畑が点在して田植えや収穫等を眺めながら散歩ができる環境にある。施設全体で自治会や地域包括支援センター等の協力を得て「地域交流室」を活かして地域の交流に取り組み、成果を上げている。管理者は職員に、利用者には無理強ひすることなく話をして納得するまで待つ姿勢で接することを伝え実践している。法人理念の「一人ひとりの想いを毎日の暮らしの中でどう反映できるか」を考え行動し、「天気がいいからドライブに行きたい」の声や「・・・が食べたい」「・・・をやりたい」の要望は出来る限り即決で対応している。毎日が楽しく過ごせ、利用者職員が笑顔で暮らせるように取り組んでいる。ハード面ではテーブルや椅子などの備品をはじめ、使い易く安全に配慮された設備が整っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 10月 27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開始、終了時の意識を高めるためにメリハリをつけている。月1回、施設全体で確認を行うこととしている	法人理念の「利用者一人ひとりの想い」にどう反映できるかを、職員は会議以外でも話し合い実践に繋げている。開設時に事業所職員で「四季を感じる暮らし・想いをつなげる」の事業所理念を定め、日々季節を感じる食事や行事を行い毎日の暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に定期清掃、町内会祭り、災害訓練等、地域行事に参加している	自治会長や民生委員・ボランティアの協力があり、併設の小規模多機能型事業所と合同で職員と一緒に地域の行事に参加している。近隣の人と散歩や近くのコンビニへの買い物などで顔見知りになっている。散歩時などに果物や花のおすそ分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室を提供し、でんでん体操教室を開催。市のリハパーク、自治会長、民生委員、包括支援センターの協力のもと、介護相談、介護予防、コミュニケーション交流を図れるよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月、2ヶ月ごとに運営推進会議を実施し地域、家族、包括センターからの意見を取り入れている	小規模多機能型事業所と合同で、行政・包括職員・自治会長・民生委員・家族などの参加があり、定期的開催している。会議で出た意見・要望は検討し反映させている。自治会長から地域の情報や行事への参加要請などがあり、交流が増えてきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との関わりが少ない。地域包括支援センターとは些細なことや地域で困っている利用者の相談に関わっていただいている	市の生活支援課と生保受給者の対応について連絡を取り合っている。包括職員とは施設長が頻りに交流し相談や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間計画研修に取り込み、施設職員全員、研修で学び現場に取り入れている	夕方になると不穏になり帰宅願望が出る人と一緒に散歩しながら思いを聞き、しっかり納得してもらうまで対応することで落ち着いて過ごせるようにしている。利用者の状態を把握し見守りの体制を厚くするため、職員の早番・遅番の時間帯を変更する柔軟な対応している。	

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例ミーティングを行い職員同士の意見交換、今後の課題、反省を含め、虐待を未然に防ぐ対策をとれるよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の必要な利用者等、活用できる支援に取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得ができていないか、否の確認をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所から利用者、家族、地域に配布する通信、施設内独自の毎月発行されるお便りを運営に反映させている	運営推進会議で家族から「お便り以外に個々の活動内容を知りたい」の意見があり反映させている。利用者は外出希望が多く職員の思いと一致し大きな車の購入もあってドライブに気軽に行けるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会、店舗内会議、意見交換できる場を設け、個別に発言できる時間と場所を提供している。それぞれの意見を取り入れ(働きやすい環境づくりと運営に反映できるよう努めている	職員は日常的に意見や要望を言いやすい環境の中「お天気がいいのでドライブに行きたい」「暑いのでアイスを買ってきたい」など計画にないことも出来ることは即反映させている。施設合同で勉強をする仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課の取り組む期間あり、管理者、職員の自己評価シートにて勤務状況や個々の努力、能力、適性を見出し向上心をもって働ける環境を築いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上アップを目指した法人内外の研修を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換や勉強会等、積極的に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に時間を設け、要望を受け止めるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をつくり、受容できる関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見を聞き、相談しながら確認をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要なことを支援しながら共有の時間を過ごしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に寄り添い支えながらの対応をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントや行事を大切にしている	入居以前の施設で一緒だった同法人の他事業所利用者から、リハビリの先生を通して手紙のやり取りを続けている人がいる。友人・知人の訪問もあるが、1階の小規模多機能型の利用者と合同のイベントや日常的に交流があり、馴染みの関係になってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員、一人一人が関われる組織づくりをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援できることは継続している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ずつ、汲み取れるよう対応している	自立度が高い人が多く、1対1になれる入浴時や居室又は散歩時など、日常の会話の中から思いや意向の把握をしている。聞いたことは申し送りノートに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多職種の方々と関わりをもつようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の安定されている方ばかりではないので慎重に観察している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	様々な意見を取り入れるようにしている	本人・家族・関係者で担当者会議を開き、本人の意向を第一に考えて検討し、計画を作成している。転倒等状態の変化があれば医師の意見を取り入れ話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子等、ミーティング等で検討、話し合いを持っている		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、要望を把握している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を十分に活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	双方で連携を図っている	入居時に協力医の説明をし全員が協力医に変更している。内科・歯科の往診が月2回ある。結果は急変で無い限り、毎月お便りの特記事項で家族に伝えている。他科受診は家族が対応し、結果は聞いている。週3回透析治療の送迎を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりを持ち必要に応じた支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療との密な連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限りの支援を受けれるよう取り組んでいる	入居時に医療が必要になるまでの看取りの指針の説明をしている。状態の変化によって医師の意見を聞いてその都度家族と話し合い、今後の支援方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員が入社したり、年間で計画をたて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践をして身につけている。常日頃から地域との交流を図っている	開設時、新人研修で火災を想定し水消火器使用の訓練・通報訓練を行った。12月には消防署の指導の下、訓練を行う予定である。地域の防災訓練に利用者と参加し、推進会議等で地域との協力体制作りを進めている。備蓄はキッチンに用意してある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部、外部研修に参加して対応している	管理者から職員に納得するまで待つ姿勢の大切さを伝えていて、日常的に本人の思いや気持ちを尊重し、寄り添い無理強いすることなく、声掛けし納得がいくまで話を待つ対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い等、引き出せられる環境をつくっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活が継続できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できるよう声掛けや促しをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることは本人の意向、残存能力を見極めている	献立は準備しているが、利用者の希望も聞いて担当職員が手作りしている。赤・緑・黄の彩りを取り入れ食欲が出るように工夫をしている。音楽を流し、職員と同テーブルで会話をしながら同じ物を食べている。下膳や食器洗い・食器を拭く等出来る人が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態に応じた対応している		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	二重チェックを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつのサイクルを把握しできる限りトイレで排泄できるよう対応していく	トイレの前部に身体を支えるための可動式の手すりがある。定期的な声掛けで誘導して全員がトイレで排泄している。オムツをしている人も夜間でも声掛けしトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活サイクルを整えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の好み、清潔を保持している	毎日13時30分から概ね1日3～4名、1日おきに入浴するようにしている。希望があれば夕食や寝る前でも可能である。拒否する人は少ないが時間をかけて本人の思いを聞き、納得してから入浴するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、安眠できる環境を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携を図り、対応をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしたりしている		

静岡県(グループホームつぐみ下島)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	助言、提案を取り入れている	近くの神社まで散歩に出かけたり、百円均一の店やコンビニの買い物に行っている。日当たりの良いベランダへ椅子を出し、外気浴をしている。管理者は利用者の生活の潤いの為外出支援に取り組む予定である。	買い物や散歩だけではなく、本人の希望を把握した生活に潤いや変化を与えられる外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の管理のもと支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を尊重し対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	張り紙、季節の花などを飾りつけている	両面に広い窓のある開放的なリビングから真直ぐな廊下を挟んで居室が配置され、一目で利用者の動向が見える。オープンキッチンから職員の手作り料理の匂いが漂い、並べられた丸テーブルは状況に合わせて何人でも集えることが出来て、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人の落ち着いた空間作りを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を最優先している	クローゼットと可動式ハンガーが備え付けられ、洋服やカレンダー・写真などを掛けている。レンタルベッド利用や敷き畳に布団を敷いて過ごす人もいる。仏壇の持ち込みには安全を考慮して配置し、壁紙・カーテンの色が各部屋ごとに違い、個性を活かす楽しい環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別対応をしている		